

かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお
 かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお
柿生文化
 かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお
 かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお かきお

平成22年1月14日
 川崎市立柿生中学校
 郷土史料館情報・研究誌
 第19号



明けまして、おめでとうございます



今年もよろしく願いたします

校長 板倉敏郎

今年の干支(えと)は「寅(とら)」年です。正式には庚寅(かのえ とら)の年です。

さて、「寅年」はなぜ「虎年」と書かないのでしょうか。また、私事で恐縮ですが昨年10月で「還暦」を迎えました。この「還暦」とは何のことでしょうか。

日本の暦は、一般的によく解らないことが大変たくさんあります。今回は、その辺について考えてみたいと思います。

現在の暦は、太陽暦ですが明治4年までは月の動きによって定めた太陰暦を使っていました。これは、中国の殷(いん二紀元前16世紀頃の王朝)の時代に作られたといわれています。

この太陰暦の特徴は、十干と十二支の組合せによって年や日にち・時間を定めていました。例えば次の表を見ながら説明しましょう。

(五行)	木		火		土		金		水			
(十干)	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	甲	乙
	きのえ	きのと	ひのえ	ひのと	つちのえ	つちのと	かのえ	かのと	みづのえ	みづのと	きのえ	きのと
	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
(十二支)	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥
	ね	うし	とら	う	たつ	み	うま	ひつじ	さる	とり	いぬ	ね
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	きのえね	きのとうし	ひのえとら	ひのとう	つちのえたつ	つちのとみ	かのえうま	かのとひつじ	みづのえさる	みづのととり	きのえいぬ	きのとね

中国では、天地すべてのものは、五つの物質(五行)「木火土金水」から出来ていると考えられていました。そして「木火土金水」はそれぞれ「陽」(積極的・活動的・激しい)と「陰」(消極的・受動的・静か)の性格を持っていると考え、それぞれが陽(兄二え)と陰(弟二と)に分けられていました。例えば「木」の陽は「木(きの)の陽(兄二え)二甲(きのえ)」と「木の陰(弟二と)二乙(きのと)」ということになります。つまり「木火土金水」にそれぞれ陽と陰があって十干となるわけです。今年庚寅(かのえとら)ですから陽気をもった年になるのでしょうか。

次に十二支は、木星の公転の12年を基にして、この動きを12区分して各地点に子丑寅・・・の名称をつけたことから始まっています。この名称は、それぞれ季節の様子を表す意味を持った文字です。「子」を鼠・「丑」を牛・「寅」を虎などとしたのは、後に覚えやすくするために別に付けられたものです。中国、日本、ベトナムなど中国文化の影響を受けた地域では、同じように動物の名前が付けられています。

「還暦」は、十干と十二支を図のように組合せていくと60通りの組合せが出来ます。したがって60年で元の干支に戻るわけです。それを還暦というわけです。

杉山神社と麻生庄

府中の大国魂神社をご存知だと思います。この神社は景行天皇の御代に武蔵の国の護り神（大国魂大神）を祀った社とされ、大化の改新(645年)に武蔵の国の国府が府中に置かれると、武蔵国中の神社の総社として崇められており、通称「御六所宮」と呼ばれています。それは武蔵の国の中の主要な神社六ヶ社が本殿に合祀されているからで、その中に橘

樹郡、都筑郡から一社、現都筑区西八朔の杉山神社が「六の宮」として祀られています。



この杉山神社の歴史は古くから多くの謎を残しています。それは橘樹、都筑郡周辺に杉山と冠した神社が七十二社もあり、それが総て鶴見川流域に分布しています。元宮はどこで、祭神は誰で、なぜ鶴見川本支流域のみに限られているのか、この地方を探る鍵になっています。

この辺のところを武蔵風土記は、都筑郡茅ヶ崎村、茅ヶ崎神社の稿で「阿房国阿房郡安房神社ノ神主、忌部勝麻呂人皇四十代天武天皇御宇白鳳三（656）年秋九月神

託ニヨリテ武蔵国杉山ノ地ニ大祖高御産巢日大神天日和志命、由布津主命三柱ノ神ヲマツリ杉山神社ト号ス…」と記しています。これは杉山ノ池がどこかが問題で、古社吉田社には杉山の地名があり、大棚にも由緒ある杉山社があり、大国魂神社は本殿に西八朔神社を祀っており、はっきりしませんが共通しているのはこれらの神社は鶴見川本流を離れ恩田川（八朔）早淵川（吉田大棚）に在ることです。

忌部氏遠祖は古事記で天岩窟を司った神といわれ、一族の職は弊帛・鏡・綿布に関わる祭司で、安房に渡ったその氏族はさらに良質な麻布生産の地を求めて舟行可能な早淵川流域に渡来したものと思われま

す。このことは、前記茅ヶ崎神社に年中行事の記録があり推察することができます。「神供神酒ヲ献ジ、神畑ニ麻種ヲ散ズ、神人等之ヲ勤ム、古ハ当郡麻生庄十五ヶ村是ヲ勤ムト言フ、七月七日梶葉供養、梶ノ葉ニ飯ヲ盛ツテ献ズ、梶トハ楮ノ事也。」立秋ノ日「高机ニ生麻ヲ奉ジ、此麻ヲ氏子受ケテ産婦ノ守リトス。此日麻生庄中ヨリ六官宮へ新麻ヲ献ズ」とあるそうです。楮（こうぞ）とは、和紙の原料となる小木でカミノキとも言いますが、そのことは忌部氏が奨める麻の栽培が職掌である神事と結び付き村々に伝播したことを物語っています。

麻生十五ヶ村とは何処であるかは分かりませんが、現町田市三輪町椛山神社の年中行事にも「二月春分の日、麻散。神供神酒ヲ献、神畑ニ麻種散、神人等勤之古八当郡麻生庄十五ヶ村ヨリ是ヲ勤ト言フ。」文和元年壬辰二月、都筑郡杉山神社祝部との記録があります。してみると麻生庄は現都筑区から町田市までの広い地域であったことが分かります。 文、小島一也氏



大国魂神社 一御六所宮一

参考：杉山神社考（戸倉英太郎氏）

私説 杉山神社考（飯田敏郎氏）

365頁にわたる郷土史の集大成

「麻生郷土歴史年表」完成 小島一也氏の の労作成る

この度、上麻生の小島一也氏が長年温めてきた郷土の歴史を編纂され「麻生郷土歴史年表」を完成され出版されました。

この「麻生郷土歴史年表」は、全365ページに及ぶ圧巻で地質時代より平成21年までの麻生の歴史を編年体で著しており、西暦・元号をもとに郷土史、日本史、世界史がそれぞれ同時代で対比させながら記述されております。

特に見開きの左側には、全てコラム欄が設けられ、各時代に関するトピックスが紹介され、各時代への興味関心を高めています。

小島氏は、当冊子の編集にあたり、今日まで約40年間にわたり書き温めていらっしゃり、時間を見つけては、執筆作業にあたられていらっしゃいました。

また、明治時代以降の近代史については、柿生・岡上の出来事のみならず、当時の人々の生活の様子も紹介されており、昭和史については、小島先生ご自身の実体験にもとずいたものも多く、きめ細かい記述がなされています。

曾て、多くの地域で多くの郷土史誌が刊行されておりますが、このような形式をとった郷土史誌は数が少なく、郷土史研究にとっては、有り難い研究資料となることは間違いのないものと思われま。

「論語」の中に「温故知新」という有名な言葉がありますが、まさに古きを知ることにより新しきを創りだす、その核となる書といっても過言ではないでしょう。日本全国の郷土史誌の見本となるものと確信しております。



編年表

- 一九四二
大九工藤米軍が脱走、米軍の捕獲と...
川崎で朝鮮人生活福祉協会の創立...
川崎で朝鮮人生活福祉協会の創立...
川崎で朝鮮人生活福祉協会の創立...
- 一九四三
川崎で朝鮮人生活福祉協会の創立...
川崎で朝鮮人生活福祉協会の創立...
川崎で朝鮮人生活福祉協会の創立...
- 一九四四
川崎で朝鮮人生活福祉協会の創立...
川崎で朝鮮人生活福祉協会の創立...
川崎で朝鮮人生活福祉協会の創立...

郷土史

- 川崎市、市内への入居者が増加する...
川崎市、市内への入居者が増加する...
川崎市、市内への入居者が増加する...
- 川崎市、市内への入居者が増加する...
川崎市、市内への入居者が増加する...
川崎市、市内への入居者が増加する...

日本史

- ▽金田一宮内大臣の死...
▽金田一宮内大臣の死...
▽金田一宮内大臣の死...
- ▽金田一宮内大臣の死...
▽金田一宮内大臣の死...
▽金田一宮内大臣の死...

世界史

- ▽米田トリス...
▽米田トリス...
▽米田トリス...
- ▽米田トリス...
▽米田トリス...
▽米田トリス...

コラム

麻生の歴史年表

麻生は、明治時代の近代史については、柿生・岡上の出来事のみならず、当時の人々の生活の様子も紹介されており、昭和史については、小島先生ご自身の実体験にもとずいたものも多く、きめ細かい記述がなされています。

本誌の創刊、生田は...

麻生郷土歴史年表

麻生郷土歴史年表は、全365ページに及ぶ圧巻で地質時代より平成21年までの麻生の歴史を編年体で著しており、西暦・元号をもとに郷土史、日本史、世界史がそれぞれ同時代で対比させながら記述されております。

特に見開きの左側には、全てコラム欄が設けられ、各時代に関するトピックスが紹介され、各時代への興味関心を高めています。

小島氏は、当冊子の編集にあたり、今日まで約40年間にわたり書き温めていらっしゃり、時間を見つけては、執筆作業にあたられていらっしゃいました。

また、明治時代以降の近代史については、柿生・岡上の出来事のみならず、当時の人々の生活の様子も紹介されており、昭和史については、小島先生ご自身の実体験にもとずいたものも多く、きめ細かい記述がなされています。



著者の小島一也氏

郷土史関係図書紹介

著者：宮田太郎 発行：ネット武蔵野
「鎌倉街道伝説」 定価：1143円（税別）

この著書は、鎌倉街道を知るための入門書的なもので小・中学生にも読みやすく写真や図版も多く大変分かりやすい内容となっています。

柿生・岡上に関しては、古沢の「九郎神社」と鎌倉道、岡上の東光院横を通る「早ノ道」伝説や円覚院と熊野修験道の関係、万福寺と「笹子姫」伝説など興味のある多くの話が掲載されています。

第18回 カルチャーセミナー

- 1、期日 1月20日(水)
午後5時30分より
- 2、会場 柿生中学校 2階 視聴覚室
- 3、講師 浜田 晋介氏
市民ミュージアム学芸員
- 4、テーマ 「川崎縄文1万年」
・市民ミュージアム特別展責任者が語る柿生岡上の縄文時代

第19回 カルチャーセミナー

- 1、期日 2月12日(金)
午後5時30分より
- 2、会場 柿生中学校 2階 視聴覚室
- 3、講師 望月 一樹氏
市民ミュージアム学芸員
- 4、テーマ 「江戸期の古文書から判る柿生・岡上の姿」

郷土史料館「史料」の寄贈・寄託のお願い

今年、完成する本校の「郷土史料館」に収蔵する柿生・岡上に関する歴史的資料を探しています。ご自宅で保存されている史料（古文書や生活道具類）でお譲りいただけるものや、一時、お貸しいただけるものがございましたらお知らせください。しっかりとした管理体制で収蔵します。よろしくお願いたします。

このような史料はありませんか

- ◎古代の「縄文土器・弥生土器」「石器」「土師器」「須恵器」
- ◎江戸時代の「検地帳」・「水帳」・「五人組帳」・地域の「絵地図」
- ◎江戸時代の「高札」（慶応4年の太政官布告「五榜の掲示」など）
- ◎江戸時代の寺子屋や私塾で使用した教科書・手本「各種往来物」
- ◎江戸時代の「藩札」「通行手形」
- ◎明治期発行の「地券」 ◎明治期の「自由民権運動」史料
- ◎明治・大正・昭和（戦前・戦中）の「国定教科書」・「新聞」
- ◎小型の農具「千歯こき」「備中鋏」「からさお」
- ◎各時代の「古銭」「生活古民具」（矢立て・印籠・火打ち・鏡・装束など）
- ◎その他各種史料「各種古文書類」「美術品」

寄贈・寄託していただける史料がありましたらご一報ください。

柿生中学校 044-988-0004 黒川まで

町内会・自治会を通してお願い文を配布したり、柿生郷土史料館設立準備委員が直接、地域をまわり、お願いにあがります。ご協力お願い致します。